

◆ 2019年度活動報告シート ◆

団体名：新河岸川水系水環境連絡会

22A-32

代表者：代表 菅谷輝美

URL :

1. 活動が必要とされた状況

25年前から水質の一斉調査を行い、20年ぐらい前からは水辺の生き物調査も流域全体で行ってきました。水質が改善される一方、水量の減少が問題になり、外来の植物や魚類等が増えるなどの変化があります。

経年調査を続けて流域の市民とも情報を共有し、良好な水辺環境の再生・保全をともに考えていく必要があります。

2. 活動の内容（実施時期、参加人数、活動内容など）

- ・身近な川の一斉調査 6月2日 参加団体 34団体・9学校（中・高・大）
約200名 写真①
調査内容 気温、水温、電気伝導度、透視度を計器で、COD、アンモニア性窒素、亜硝酸性窒素、pHをパックテストで測定し、データを集計。
この後、報告書とマップ作成の予定。
- ・総合調査 11月3日 大森調節池総合調査 参加者：
2月8日 白子川源流総合調査 参加者：12名 写真②
調査内容 一斉調査と同様の水質測定と、水生植物、水性昆虫、魚類、両生類、爬虫類を調査。専門家の同定後、報告書に掲載予定。
- ・川ごみ調査とクリーンエイドを、流域各団体・学校が実施。
結果は全国取りまとめ団体に送付。
- ・シンポジウム 2月29日「新河岸川水系の水循環の復活」講師：飯田輝男氏
（社団水循環研究所所長 元東京都環境局）参加者：18名 写真③
- ・地下調節池見学会 2月20日 環状七号線地下調節池 参加者：



①



②



③

3. 活動の成果

一斉調査は例年通り行い、水質に問題のある地点、水がなく計測できなかった地点などが鮮明になったことで、その周辺の土地の特性や問題点が明らかになりつつある。

今後、問題のある個所の詳細な調査を行い、周辺市民への啓発を行うとともに、行政とも協力して問題の解決方法を探っていきたい。

4. 今後に残された課題

連絡会に参加する団体の中で、高齢化による活動の範囲が狭まっているところや活動が困難になっているところがあり、若年層をいかにして増やしていくかが課題となっている。

また、毎年の調査に必要な資金を助成金に頼らなければならない状況もあり、自前での資金の調達も課題である。